

【基本理念】

私たち職員は、県営医療の根幹である「県民に平等な医療の恩恵を」の精神を受け継ぎ、患者さんに「誠実と医学で支える良質な医療」を提供し、地域の人々に愛される病院づくりを進めます。

新年度を迎えるにあたって

院長 川村 秀司

年明け早々、トランプ氏が再び大統領に返り咲き、その影響が全世界を揺らしています。そのような中でロシアのウクライナ攻防がどのような結末を迎えるのか注目の的になっています。政治では来年度予算における答弁が白熱しておりますが、高額医療費制度も含め、今後の社会保障費制度の在り方が気になるところです。

さて2025年、いよいよ以前から騒がれていた“団塊の人達が全て75歳以上になる年”です。これによりさらに高齢者が増加する時代に突入することになります。実際、高齢者が増えてきているのを実感しており、当病院のような地域密着型病院では入院患者の平均年齢は83.9歳、もちろん外来においても殆どが高齢者です。地域包括ケアシステムにより高齢者を支えると謳っておりますが、何故か不安が払拭できずにいます。

地域包括ケアシステムに記載されている“**植木鉢の図**”は医療関係者であれば誰もが把握しているかと思います。昨年当院主催の地域医療懇話会研修会での資料作成の際、10数年前から提示されていた課題が何ら変わらず今に至っていることに驚きを隠しきれませんでした。理由として『**“葉”の部分**』にあたる「医療・介護、介護・リハビリテーション、保健・福祉」では、人口減少、報酬不足等によるサービス不足、人材・育成不足、施設不足であること。『**“土”の部分**』にあたる「介護予防・生活支援」では地域の高齢化で互助が困難であること。『**“鉢”の部分**』にあたる「すまいとすまい方」では支援者がいない独居の高齢者世帯の増加、交通手段の不足、家族の介護力の低下、在宅医療の理解不足があること。そして最重要視される『**“皿”の部分**』にあたる「本人の選択と本人・家族の心構え」ではACPの普及不足、未だ本人・家族の覚悟・日頃の心構えが十分ではない状況にあるからです。確かに以前に比べれば浸透されてきていると思いますが、未だ医療・介護難民に近い人たちが現実に存在しているのを目の当たりにしますと、細部まで行き届いていない面がある事が否めません。このような状況であると如何に専門職だけが頑張っても、もはや地域包括ケアシステムが成り立つものなのかどうか危惧されます。昨年の診療報酬・介護報酬の同時改訂では医療側、介護側お互いの理解を試される仕組みに誘導されました。多職種連携というものの、職域間の壁も連携を阻む要因になっていると思われますが、今や連携するのは当然のことで、これからはさらに一步を踏み込み住民を巻き込んだ連携強化の必要性を感じます。これからの高齢社会、医療だけでは高齢者を支えることは出来ません。「病院に行けば安心だ」という“病院神話”はもはや通じる時代ではなく、国民1人ひとりが医療・福祉の正しい情報を取捨選択しなければならない段階にきているのではないかと思います。もちろん我々も正しい情報を提供しなければならないことは言うまでもありません。

2040年に向けこれからは少子高齢多死時代です。いかにタイミング良く本人と家族の覚悟と決断を支えることが専門職の大きな役目となりましょう。



～ BLS研修 ～



令和6年1月31日（水）14時から約1時間30分で全職員を対象とした心肺蘇生法をAEDを併用して研修を行いました。BLSとはBasic Life Supportの略で、日本語では「一次救命処置」と言います。今回の研修は、江刺消防署の救急隊員に講師を依頼し、実技を行う前に感染予防を踏まえた救命救急法の動画を視聴し、要点を確認後実技に臨みました。実技では1グループ4～5人で胸骨圧迫を行う人、AEDを持ってくる人、救急車を呼ぶ人等、ひと通りの役割を体験し、一連の流れを学びました。心肺蘇生を行う際の感染予防対策としてバックバルブマスクを使用した方法も学びました。

BLS研修は委託職員も含めた全職員を対象としているため、参加人数も多く全員が実践するには時間が不足することが明らかになったことから、次回は職種を分けるなど、複数回の開催が必要であると感じました。

講義



実技





今年度の甚句まつりは大人数!!

天気は晴れ☀ 春の穏やかな日差しの元、総勢54名で踊ってきました。

今回、江刺病院の地域活動として江刺甚句まつりに参加させていただきました。自分も含めどのような踊りであるのか知らない職員も多く、短期間で踊りを覚えられるのかとても不安になりながらもお昼休みを返上して練習に励みました。

当日、病院前のロータリーで患者さんに踊りを披露したあと会場へ向かうと、沿道にはたくさんの観客がおり緊張が一気に高まりました。初めこそ辿々しかったものの、次第に一体感が増していきのびのびと踊ることができました。祭りが終わり、病院に戻る頃には清々しい達成感に包まれていました。

このような祭りへの参加は初めてでしたが、江刺甚句まつりに参加することで改めて江刺病院の一員であるということを自覚することができました。今後も江刺病院で勤務する者としてこのような地域のイベントには積極的に参加し貢献していきたいと思います。

参加者全員で記念撮影📷



いよいよ出発!!



防災訓練

放水準備よし！

消火！



【第1回目】 令和6年9月5日(木)13:30～14:30

(1) 消火訓練

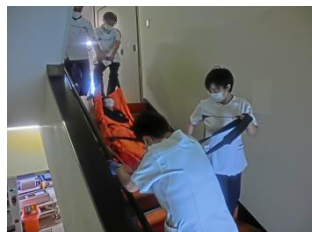
岩手県立江刺病院防災管理要綱に基づき、火災発生時の消火活動を迅速に実施するための訓練として、当院屋上にて職員等25名が参加して行いました。

放水を行う係からの合図を受けて、ホースのねじれを修正する係が確認後、消火栓の元栓を操作する係が「元栓開きます！」などと、大きな声で手順を確認し合いながら職員3名1組となり訓練を実施しました。

当日は、江刺第一中学校の生徒が職場体験に来ていたため、一緒に訓練を行いました。

(2) 避難訓練

階段等でエアーストレッチャーを使用し、参加者で交代しながら搬送訓練を実施しました。



おまけ
直上避難？



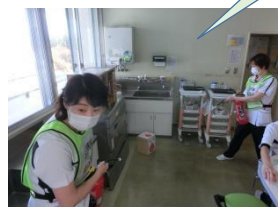
【第2回目】 令和6年11月14日(木)13:30～14:00

総合訓練として夜間想定で通報・初期消火・避難誘導訓練を実施しました。

火災発生



自動通報対応



初期消火



消火器訓練

患者搬送



今回の訓練は消防設備更新後、初めての訓練ということで防災板の捜査が慣れていないようだという講評でした。また、スタッフステーション内で消火器を使用した場合、部屋全体が消火剤で真っ白になり、その後に警備員が消火栓のホースによる消火をしているが、実際はその消火行動も困難になると想定される。そのため全体的な行動を見直したかどうかという助言をいただきました。

【胆江地区災害医療訓練】 令和6年10月19日(土)9:00(発災9:30)～12:00(訓練振り返り含む)

江刺病院手術室から火災が発生した想定で、当院を含めて6病院(胆沢病院DMAT含む)、奥州市・金ヶ崎町、消防本部、奥州保健所が参加してBCP訓練を実施しました。

搬送患者のリストアップ、搬送順位の決定が大変な作業になると想定され、各診療科医師の協力やその手順のシステム化が今後の課題であると感じました。

～あゆみ保育所～

9月19日（木）あゆみ保育所において「夕涼み会」を開催しました。親子でゴーというすごろくゲームも行い楽しく過ごしました。



HAPPY HALLOWEEN Trick or Treat

11月11日（月）夕方、あゆみ保育所恒例の「ハロウィン」が病院待合ホールにて開催され、可愛らしい仮装に身を包んだ園児たちがお歌や演劇を披露しました。最初は緊張した面持ちだった園児たちでしたが、最後はいっぱいのお菓子をもらいご満悦でした。



平成21年度から委託化されこれまで多くの職員が利用し運営してきたあゆみ保育所ですが、利用者数の減少等により、令和7年3月末をもって閉所することになりました。今まで保育所を通じて行事が行われる度に職場が明るくなり多くの笑顔が溢れました。また、職員が安心して業務に専念できる環境の提供に努めていただいたこと、日々愛情をもって子供たちと向き合い、保育に尽力していただいた保育所の職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

永年勤続表彰

岩手県職員表彰者（25年勤続）

主任薬剤師	工藤	佳代子さん
主任看護師	菅原	真美子さん
主任看護師	柳沼	志穂子さん

医療局職員表彰者（20年勤続）

主任	及川	里香さん
主任看護師	昆野	千幸さん
主任看護師	山内	千裕さん



令和6年度岩手県職員表彰式が11月14日（木）にトーサイクラシックホール岩手、医療局職員表彰式が11月8日（金）にホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて執り行われました。

当院からは上記の方々が表彰を受けられました。

祝賀会は、11月14日（木）18時30分から江刺南大通りの横屋で開催しました。



※ 当日は都合により、主任薬剤師 工藤 佳代子さん、主任 及川 里香さんが欠席となりました。

